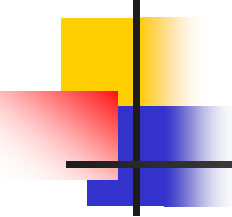


Dynamic Language Runtime ～ 新しいフレームワーク ～

マイクロソフト株式会社
デベロッパー & プラットフォーム統括本部
エバンジェリスト
荒井 省三

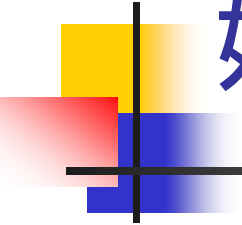
<mailto:shozoa@microsoft.com>



アジェンダ

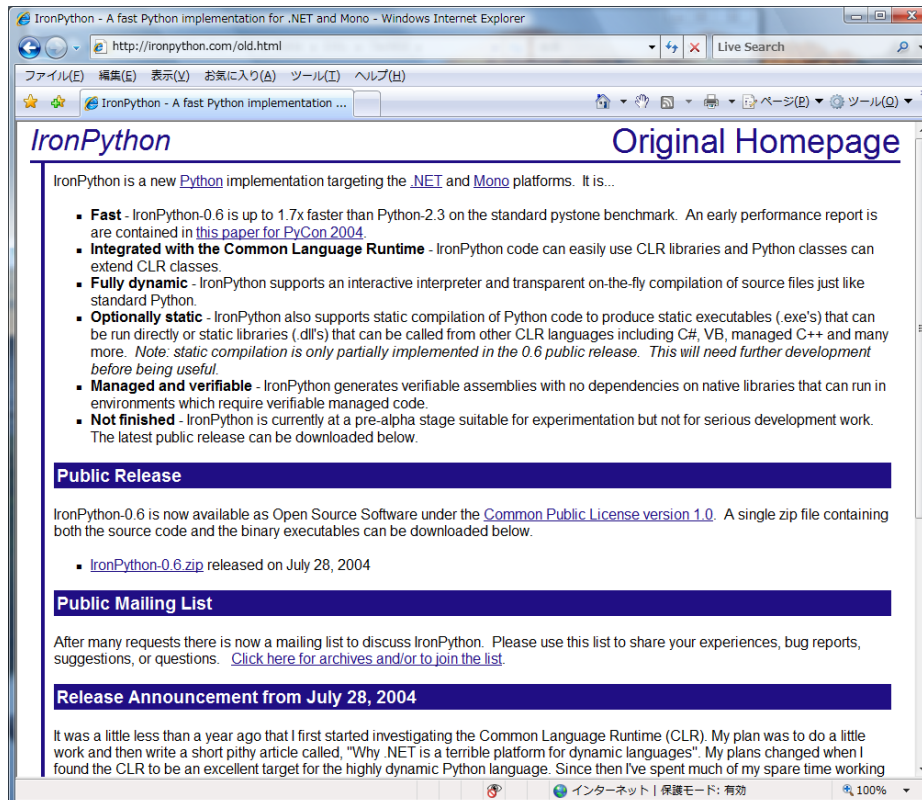
- IronPython プロジェクト
- IronPython の経験を生かす
- Dynamic Language Runtime
- DLR と動的言語
- IronRuby プロジェクト
- ライセンス

IronPython プロジェクトから 始まった流れ

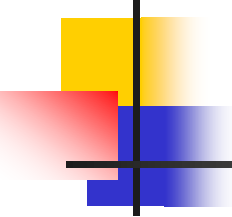


IronPython が生まれた理由

- Jim Huguninが、「.NET Framework が動的言語に適さないことを証明するため」に 2003 年に始めた



www.ironpython.org

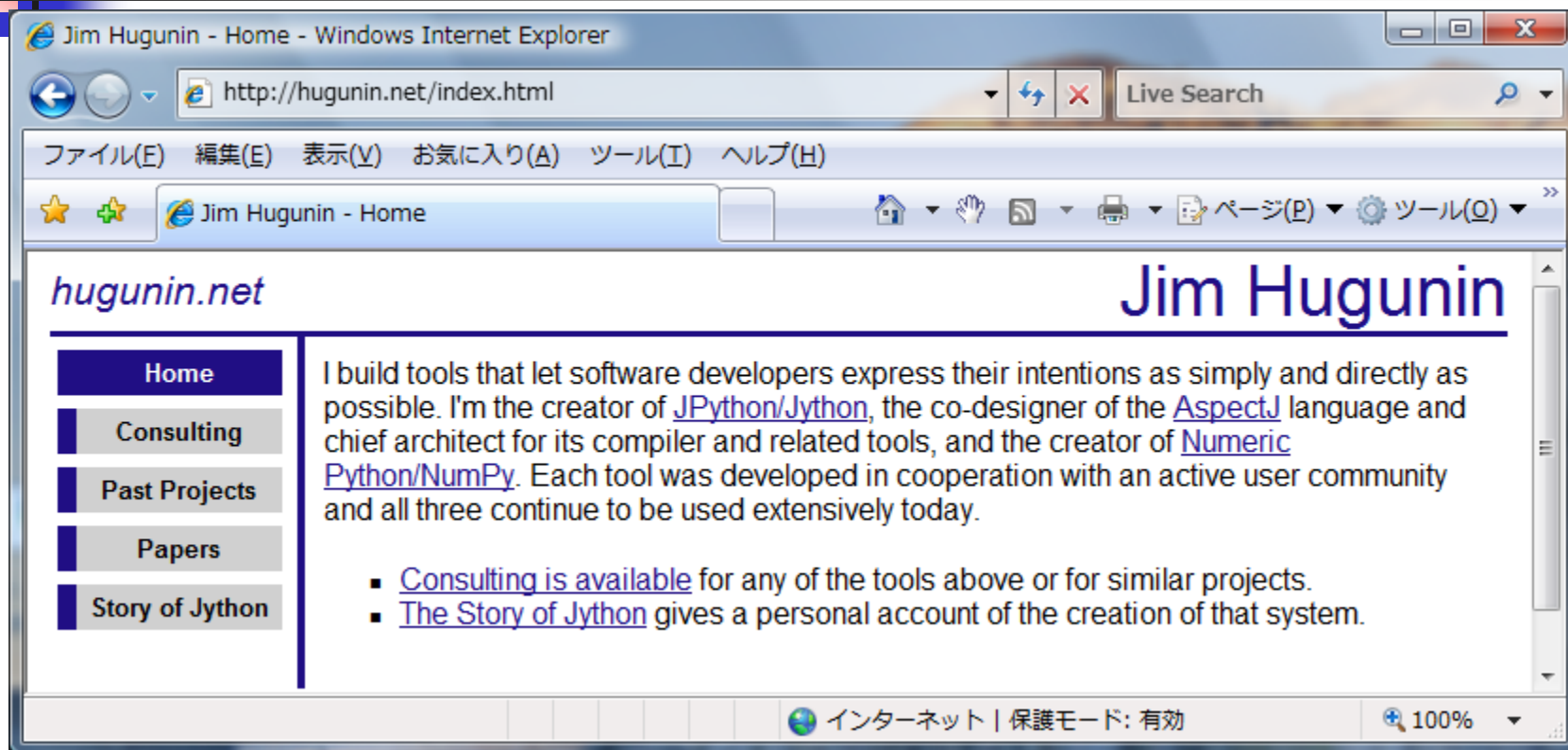


Jim Hugunin が実装してみた

- 不幸にも本家よりも高速に動作することが判明 (PyStone ベンチマークの結果)
 - .NET Framework 1.1
 - IronPython 0.6 は、Python 2.3 よりも 1.7 倍ほど高速だった

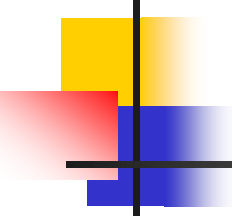
- PyStone とは、Python 用のベンチマークテストプログラム
- オブジェクト指向のベンチマークではない
- ケースによって、CPythonの方が高速なケースも判明している

Jim Hugunin とは ?



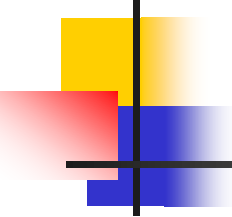
- AspectJ の共同設計者の一人
- Jython の作者
- NumPy の作者
という経歴の持ち主

hugunin.net



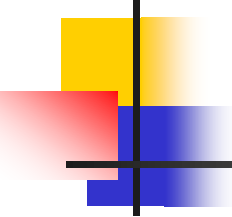
Jim Hugunin という人物

根っからのオープン
ソース開発者



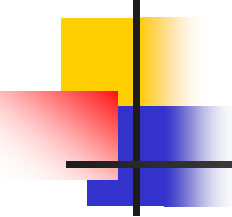
IronPython が目指すゴール

- CPython との互換性
 - インタラクティブな動的言語体験
 - 既存の知識とコード資産の有効活用
 - ライブラリ資産の有効活用
- .NET Framework とのシームレスな統合
 - .NET Framework のライブラリ活用
 - .NET 対応言語との相互運用
 - .NET Framework インフラストラクチャの有効活用
 - Visual Studio、デバッガ、プロファイラ、JIT、GC
 - プラットフォーム能力の有効活用



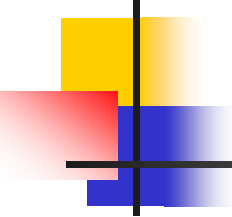
IronPython のリリース状況

- 2006.9 : 1.0 リリース
 - Python 2.4 互換
 - Python 2.5 一部の機能
- 2006.10: 1.0.1リリース
 - バグフィックス
 - site.py (コミュニティ フィードバック)
- 2007.4 : 1.1 リリース
 - バグフィックス
 - モジュールの追加 (md5、sha、select、array)
 - Python 2.5 の機能追加
 - .NET Framework の XML コメント対応
 - キャッシュモジュール 機能



FePy と IPCE

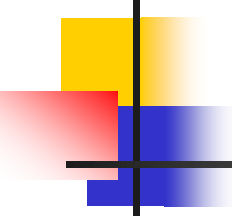
- Sourceforge のプロジェクト (FePy)
- IronPython Community Edition (FePy の成果物)
- 目的は、CPython との更なる互換性の向上
- ライセンスは、複合ライセンス
 - Shared Source License for IronPython
 - Python Software Foundation License v2
 - MIT License
 - ElementTree License
 - Python Cryptography Toolkit License
 - LGPL
- FePy ライブラリ、DB-API ライブラリ、etc
- Mono にも含まれている



名前の由来は

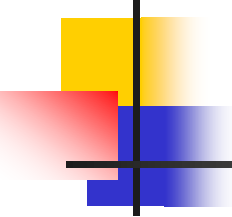
- テレビ番組「料理の鉄人」から拝借
英語名：The Battle of Iron Chef
- どちらが 鉄人 か
CPython vs IronPython

Jim さんの シャレ？



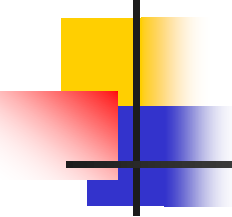
IronPython の経験を生かす

- 次期バージョンは、IronPython 2.0
 - Python 2.5 に準拠
 - 内部的なアーキテクチャの変更
= Dynamic Language Runtime
- DLR の目的
 - .NET Framework で動的言語を実装しやすくする
 - 動的言語間の相互運用の実現



DLR とは何か

- 動的言語向けのフレームワーク拡張
- スクリプト エンジン向けのホスティング インターフェースを提供
 - IScriptingHost / IScriptingEngine
低レベルのコード生成をフレームワーク化する
 - SilverLight ホスティング
 - ASP.NET ホスティング
 - コンソール サービス
- 動的型システム (Dynamic Type)
 - 動的言語間の一貫性を提供
 - CLR 型システム上に構築
 - IDynamicObject 、 DynamicHelper ...
 - メンバーへのアクセス、メンバーの取得、呼び出し、キャッシング ...
 - メソッド呼び出しのチューニング
動的言語実装者の経験をサービス化する



DLR とは何か (続き)

- 動的言語のバックエンドで動作するシステム サービス
- 利用者は意識しない
 - 利用者は、動的言語処理系で開発・実行するのであって、裏方は関係しない
 - 必要な時に必要な動的言語のライブラリを使用できるというサービスを提供するだけ
- 埋め込み利用時に利用者は意識する程度

DLR = 俺様言語を実装するためのインフラ

動的言語イニシアティブ

動的言語

3rd Party
言語

Manage
VB(VBX)

Managed
JScript

IronPython

IronRuby

DLR

Frameworks

CLR

ツール

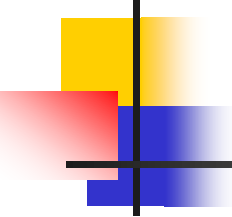
IDE 統合

Scripting ホスト

ASP.NET

Silverlight

ホスト



動的言語イニシアティブの流れ

■ 動的言語

- IronPython 2.0
- IronRuby
- Managed JScript
- Managed Visual Basic

- IronLisp、 Nua (Lua for DLR)、 VISTA Smalltalk、 BlueDragon (ColdFusion)

■ ホスト環境

- コンソール (Microsoft.Scripting)
- ASP.NET (Microsoft.Web.Scripting)
- SilverLight 1.1 以降 (Microsoft.Scripting.Silverlight)



DLR 上の役割とは

■ 言語実装者

- 言語依存の AST を作成
- ファイルの解析
- 文法の解析
- エンジン オプションの実装
- 組み込みモジュール
- ...

■ DLR

- 実行時にコード生成
- DynamicType に対する拡張
- メソッド呼び出しのキャッシュ (DynamicSite)
- オブジェクトの管理
- GC
- JIT
- CAS
- デバッグ サービス
- ...

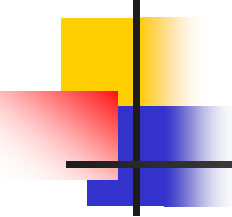
IronPython

IronRuby

JScript

VBX

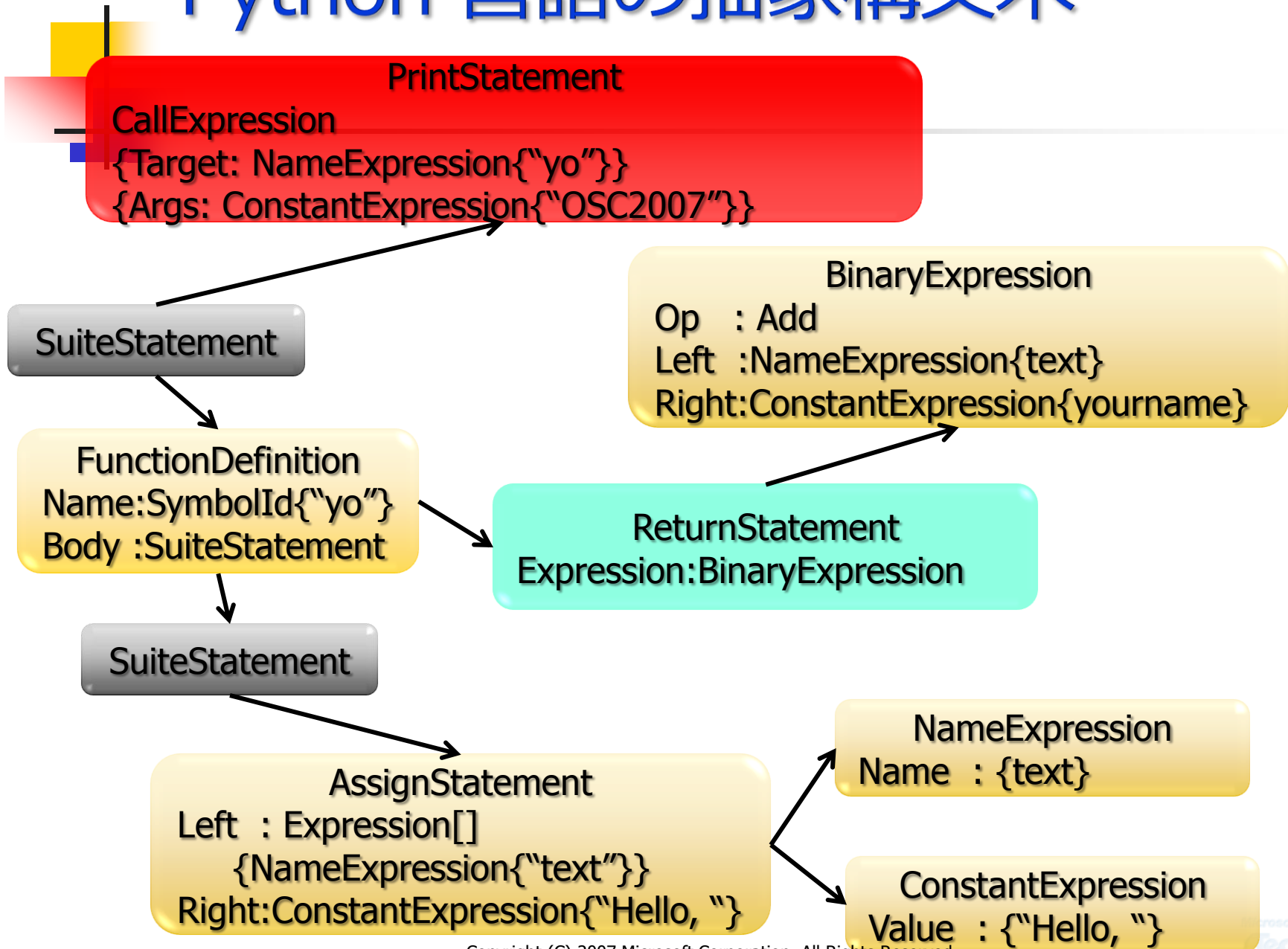
DLR



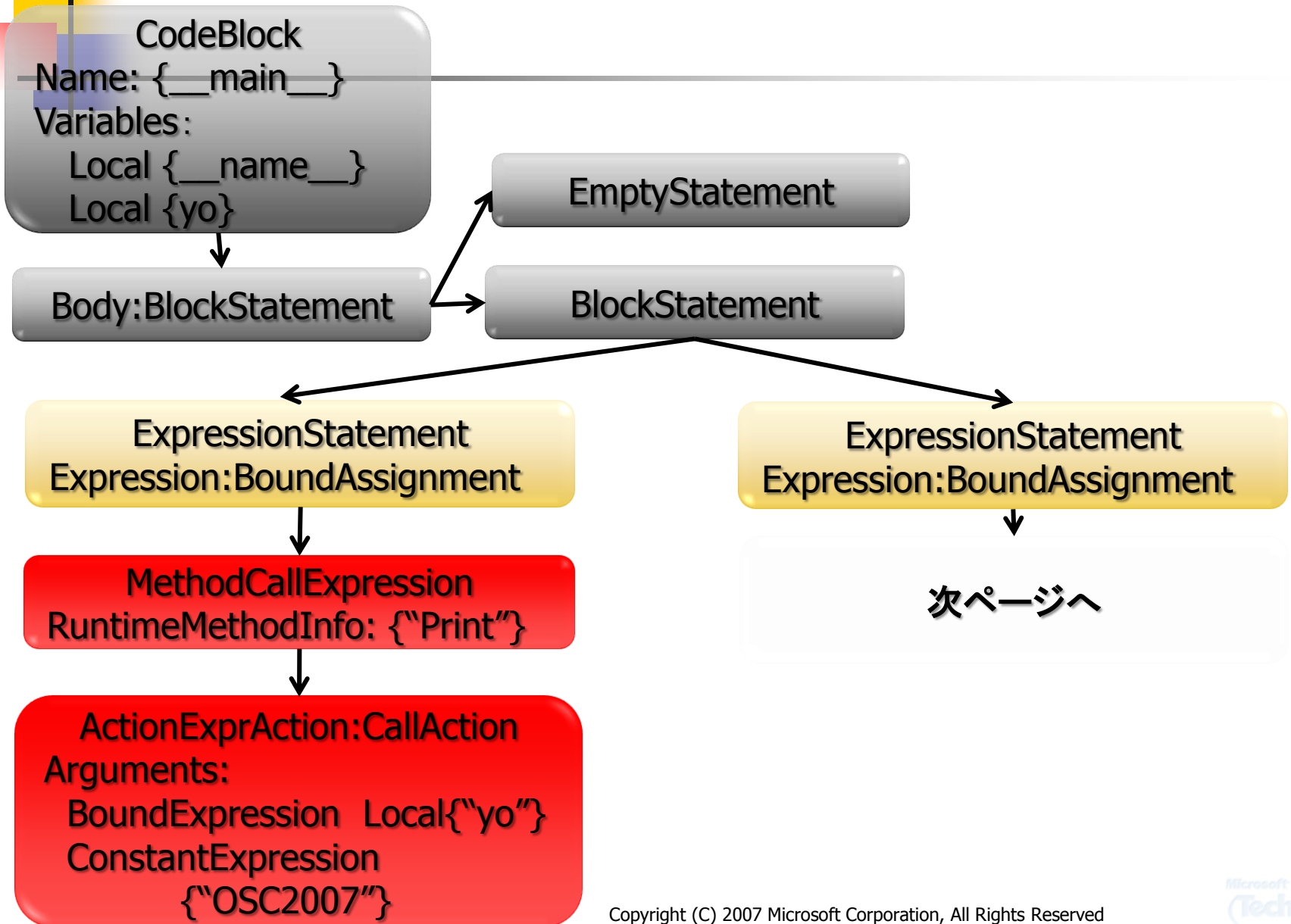
DLR における AST の概観

```
def yo(yourname):  
    text = "Hello, "  
    return text + yourname  
  
print yo("OSC2007")  
  
# シンプルな HelloWorld です。
```

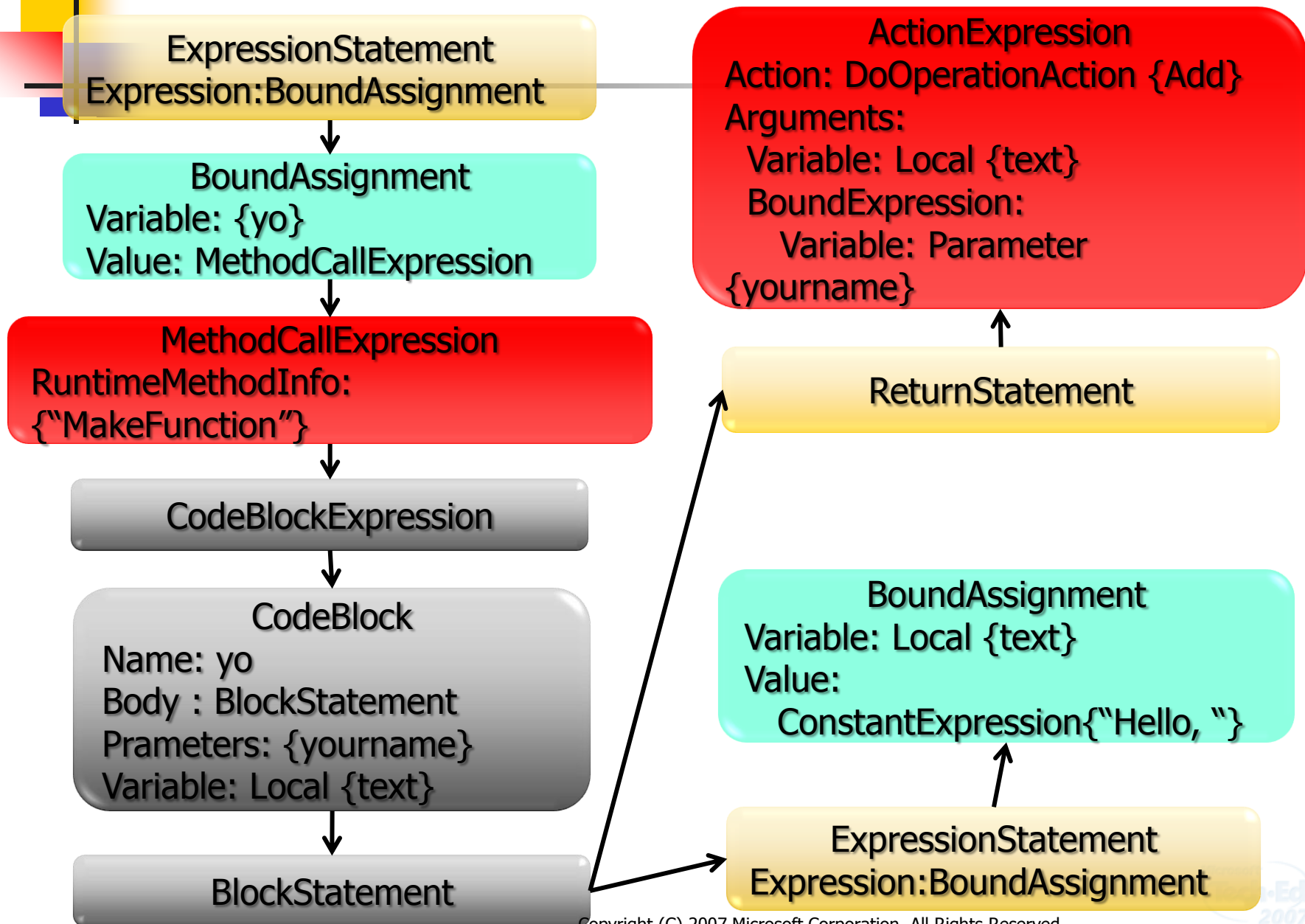
Python 言語の抽象構文木



DLR の抽象構文木



DLR の抽象構文木 (続き)



IronRuby の歩み

- 2006 年に John Lam が入社
- 2007.4 に発表 と デモを実施
- 2007.6 にプレアルファを公開
- 2007.9 rubyforge に公開



プロジェクトを始めるに当たって



マニレ秘

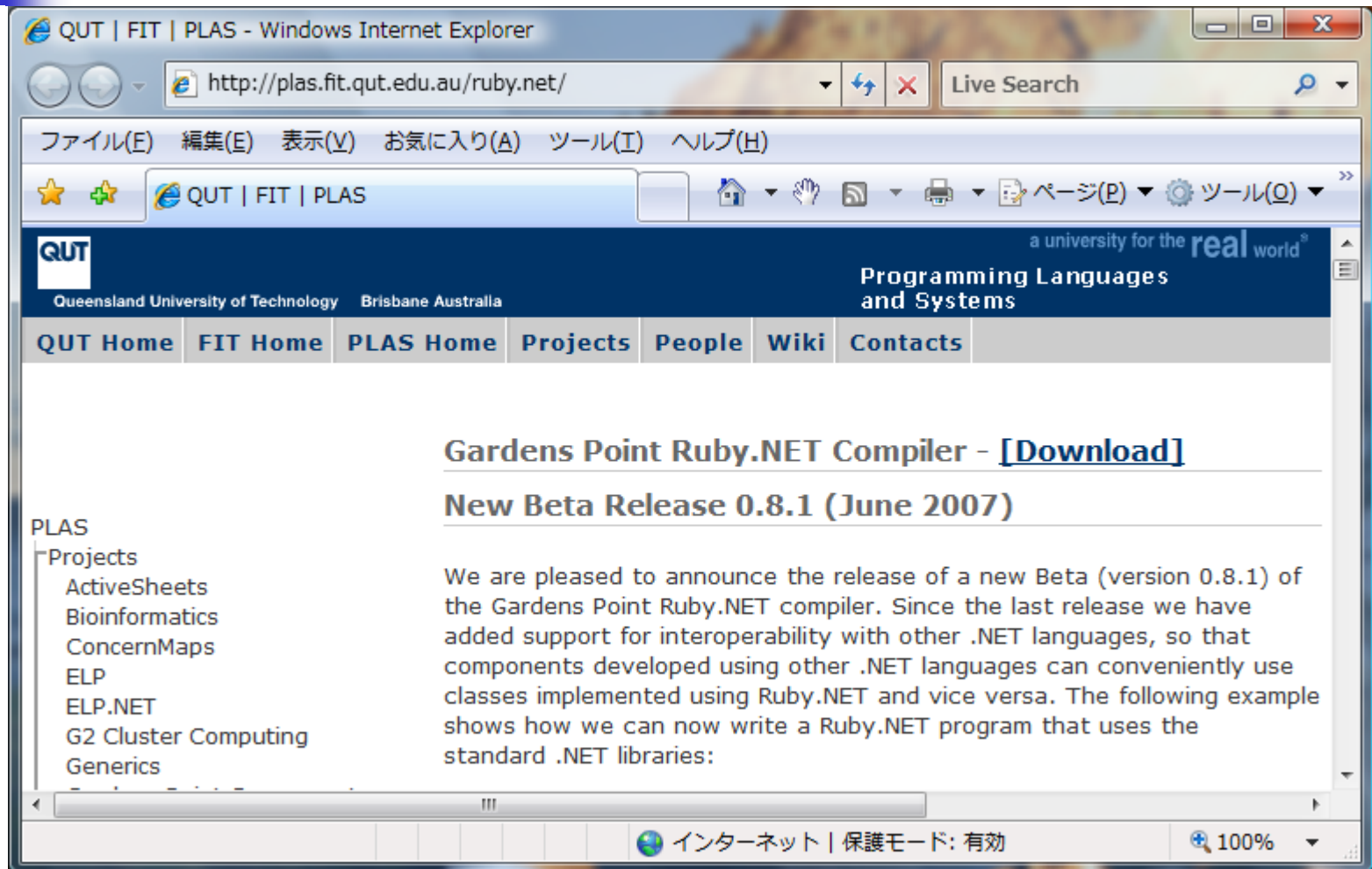
IronRuby のベース

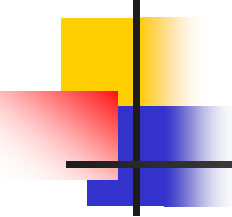
■ Gurdens Point Ruby.NET コンパイラ



http://www.iunknown.com/2007/06/ironruby_and_ru.html

QUT Ruby.NET





IronRuby の方向性

- Ruby.NET スキャナとパーサーをベース
- Ruby.NET AST を DLR AST へ変換
- RSpec を使った Ruby 仕様の定義
- 新しいコンソール、コンパイラの実装

- DLR を使ったスクリプティング モデルの定義
 - ASP.NET 向け
 - Web アプリ用のフレームワークとして ASP.NET の活用
 - SilverLight 向け
 - マルチ プラットフォーム用のスクリプティング モデル
Windows と MacOS X : マイクロソフトが提供
Linux : MONO プロジェクトから提供

DLR と mozilla

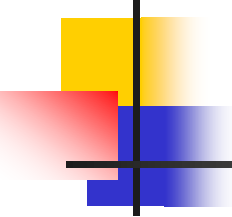


http://wiki.
mozilla.org
/Tamarin:Ir
onMonkey

ライセンス



Microsoft Permissive License
<http://www.opensource.org/licenses/status>



まとめ

- DLR とは、動的言語向けのフレームワーク
 - .NET Framework 上で動的言語を作り易くする
 - 不足する機能は、.NET Framework 自体を改良して行くアプローチ
- 動的言語へのアプローチ
 - コミュニティに受け入れられつつあるのでは ?
 - IronLisp、Nua、VISTA Smalltalk、BlueDragon、...
 - Mozilla IronMonkey
 - OSI へ MS-PL を提出
ステータスは議論中
 - MONO プロジェクトと協力して、SilverLight の Linux 版を開発

オープンな開発
アプローチでは、
皆さんの協力こ
そが重要

